



曲名 リフレイン

覚 和歌子 作詞
信長 貴富 作曲

この曲は！

信長貴富さんの代表的作品、大人気の合唱曲の一つで、ご本人が「生涯大事にしたい」とおっしゃる自信作です。覚 和歌子さんの美しい言葉と信長さんの溢れる音楽が見事に融合し、心の中に様々な映像が印象的に浮かび上がります。コンクール自由曲やクラス合唱、全校合唱に最適だけでなく、コンサートのとっておきのレパートリーとして、世代を超えて、ぜひ多くの人に歌ってほしい、触れてほしいと心から思う感動作です。

藤原式練習法

まず、覚 和歌子さんの美しい詩をしっかりと声に出して読み込むことがとても大切です。大きな特徴として、この詩は5文字の言葉の連なりから構成されています。5文字を繰り返すことで、詩の中にリズムが生まれます。繰り返し切々と言葉が紡がれることで、テンポ、緩急、言葉のエネルギーやそのニュアンスを感じます。そして、それらがそのまま音楽の高みとして昇華していきます。「くりかえし 見つめ合い」「くりかえし すきと言う」何とすてきな表現でしょう!! 詩を存分に味わい、メロディの高揚感を捉え、おおらかでゆっくりとしたテンポの中で8分の6拍子を感じることが大切です。8分の6拍子はきちんと拍感を感じないと、テンポがどんどん前に転がってしまいがちです。テンポが速くなったり、揺れたりしないように気を付けましょう。

具体的なアドバイス・ポイント

1. まずはリズム読みを行い、大きなフレーズを読み解きましょう。曲中には豊かな呼吸が伴わないと歌えない箇所が出てきます。例えば、ブレス記号や休符が出てくるところまでを大きなフレーズと捉え、そうした箇所に書き込みなどをすると、フレーズ感がより深まります。
2. 16分音符のアウトタクトがしっかりと立ち上がるように歌いましょう。16分音符を少し固めに、そしてアウトタクトから次の小節の1拍目に向かっていくエネルギーを全てのフレーズに付けられるとよいですね。信長作品の特徴として、8分の6拍子の2連符の登場などにより音楽の説得力が増していきます。信長作品「ここぞ」の場面でよく登場するこの2連符のリズム感を正しく養っていくことも大切です。呼吸と身体を連動させて十分に支えて歌い上げましょう。

この曲を 初めて歌う人に

この曲の感動性は格別!! 歌う人も聴く人も大好きな作品になると思います。そして歌った感動が、この作品に触れた感動が生涯残っていくと思います。どうぞ、のびやかに歌詞の世界を感じて、魅力溢れるメロディーを心の動くままに歌ってください。

表現を深めよう

曲の途中で女声パートと男声パートのメロディーがそれぞれ上行、下行する箇所があります。それぞれのパートの動きを感じることでハーモニーがより豊かに広がりますので、メロディーを味わい表現を深めましょう。それから、「くりかえし 寄せる波」「くりかえし 返す波」などのように、反対のイメージを表す言葉を意識して、相互の関係を感じながら歌うとすてきです。

より感動的に 歌い上げるための アドバイス

62小節目からの Un poco meno mosso が、やはりこの曲いちばんの感動ポイントだと思います。「くりかえす」という大きなテーマの中で、メロディーや前奏、間奏が何度も繰り返され、62小節目から少しテンポを落として、ついにほんとうに言いたいことを表現する場面がやってきます。どれだって一つきりであること、この今はただ「一度だけ」であること、唯一無二の瞬間を過ごしているということを歌いながら味わうと、のびやかで感動的な演奏ができるでしょう。